



2022年6月2日

各 位

会社名 秩父鉄道株式会社  
代表者名 代表取締役社長 大谷 隆 男  
(コード：9012 東証スタンダード)  
問合せ先 執行役員総務部長 佐藤 伸  
(TEL 048-523-3311)

(訂正)「2022年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正に関するお知らせ

2022年5月13日に公表いたしました「2022年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」につきまして一部訂正すべき事項がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。

なお、今回の訂正による連結貸借対照表、連結損益計算書等への影響はありません。

## 記

### 1. 訂正の理由

「2022年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」の提出後に、記載内容の一部に誤りが判明したため、訂正するものであります。

### 2. 訂正の箇所

修正箇所には、下線      を付して表示しております。

「2022年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」

添付資料 2頁

#### 1. 経営成績等の概況

##### (1) 当期の経営成績の概況

鉄道事業 (11行目) ・ 不動産事業 (2行目) ・ 観光事業 (3行目) の数値

添付資料 16頁

#### 5. 連結財務諸表及び主な注記

##### (5) 連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等)

##### 3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

セグメント利益又は損失 (△)

『鉄道事業・不動産事業・観光事業・計・その他』の数値

(添付資料 2 頁)

## 【訂正前】

(省略)

### 鉄道事業

鉄道事業におきましては、駅務員をはじめ全従業員のマスク着用、全列車内の抗ウイルス・抗菌加工、車内換気、列車・駅設備等の消毒など各種の感染症拡大防止策を実施いたしました。

また、輸送の安全性向上を図るため、設備面ではマルチプルタイタンパーや継電連動装置の更新、コンクリート枕木化などを計画的に実施したほか、異常時訓練や安全指導などによる従業員の意識向上に取り組み、本年度も運転無事故を継続いたしました。サービス面では、交通系ICカードシステムの導入やMaaSアプリによるデジタルチケットの販売を開始し、お客様の利便性向上に努めました。

旅客部門におきましては、「わくわく鉄道フェスタ」をはじめ沿線の市町や商業施設、同業他社と連携したイベントの開催、SLの魅力を高める各種企画列車の運行、記念乗車券の発売など、旅客誘致と増収施策に取り組みました。これらにより、定期・定期外旅客の人員及び収入は前期に比べ増加いたしました。

貨物部門におきましては、堅調に推移し輸送量及び収入とも前期に比べ増加いたしました。

この結果、営業収益は2,943百万円（前期比10.0%増）、営業損失は239百万円（前期は544百万円の営業損失）となりました。

### 不動産事業

不動産事業におきましては、前期と比較し、請負工事収入及び仲介収入が増加いたしました。

この結果、営業収益は341百万円（前期比5.4%増）、営業利益は174百万円（同3.3%増）となりました。

### 観光事業

観光事業におきましては、個人のお客様の利用は回復基調にあるものの、団体での利用は依然として低調であり、厳しい状況が続きました。

この結果、営業収益は367百万円（前期比17.5%増）、営業損失は35百万円（前期は69百万円の営業損失）となりました。

なお、当該事業につきましては、収益性の低下を踏まえ、当期において減損損失を計上し固定資産を適正な価額まで引き下げております。

## 【訂正後】

(省略)

### 鉄道事業

鉄道事業におきましては、駅務員をはじめ全従業員のマスク着用、全列車内の抗ウイルス・抗菌加工、車内換気、列車・駅設備等の消毒など各種の感染症拡大防止策を実施いたしました。

また、輸送の安全性向上を図るため、設備面ではマルチプルタイタンパーや継電連動装置の更新、コンクリート枕木化などを計画的に実施したほか、異常時訓練や安全指導などによる従業員の意識向上に取り組み、本年度も運転無事故を継続いたしました。サービス面では、交通系ICカードシステムの導入やMaaSアプリによるデジタルチケットの販売を開始し、お客様の利便性向上に努めました。

旅客部門におきましては、「わくわく鉄道フェスタ」をはじめ沿線の市町や商業施設、同業他社と連携したイベントの開催、SLの魅力を高める各種企画列車の運行、記念乗車券の発売など、旅客誘致と増収施策に取り組みました。これらにより、定期・定期外旅客の人員及び収入は前期に比べ増加いたしました。

貨物部門におきましては、堅調に推移し輸送量及び収入とも前期に比べ増加いたしました。

この結果、営業収益は2,943百万円（前期比10.0%増）、営業損失は237百万円（前期は544百万円の営業損失）となりました。

### 不動産事業

不動産事業におきましては、前期と比較し、請負工事収入及び仲介収入が増加いたしました。

この結果、営業収益は341百万円（前期比5.4%増）、営業利益は173百万円（同2.8%増）となりました。

### 観光事業

観光事業におきましては、個人のお客様の利用は回復基調にあるものの、団体での利用は依然として低調であり、厳しい状況が続きました。

この結果、営業収益は367百万円（前期比17.5%増）、営業損失は36百万円（前期は69百万円の営業損失）となりました。

なお、当該事業につきましては、収益性の低下を踏まえ、当期において減損損失を計上し固定資産を適正な価額まで引き下げております。

(添付資料 16頁)

【訂正前】

当連結会計年度（自 2021 年 4 月 1 日 至 2022 年 3 月 31 日）

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務諸表 計上額 (注) 3
	鉄道事業	不動産事業	観光事業	バス事業	計				
営業収益									
外部顧客への売上高	2,932,361	326,895	367,242	156,508	3,783,008	569,164	4,352,172	—	4,352,172
セグメント間の内部売上高又は振替高	11,619	15,031	516	86	27,254	315,403	342,657	△342,657	—
計	2,943,981	341,927	367,759	156,594	3,810,262	884,567	4,694,830	△342,657	4,352,172
セグメント利益又は損失(△)	<u>△239,322</u>	<u>174,206</u>	<u>△35,171</u>	△100,681	<u>△200,968</u>	<u>△101,717</u>	△302,686	15,439	△287,247
セグメント資産	17,510,295	3,151,246	481,875	354,004	21,497,422	661,983	22,159,405	1,543,756	23,703,161
その他の項目									
減価償却費	249,544	43,666	12,744	27,559	333,516	12,407	345,923	—	345,923
特別損失 (減損損失)	—	—	29,013	—	29,013	—	29,013	—	29,013
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	1,743,010	162	24,181	33,374	1,800,728	2,116	1,802,845	—	1,802,845

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり卸売・小売業、建設・電気工事業及び旅行業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額 15,439 千円は、固定資産未実現損益の償却額 3,041 千円とセグメント間取引消去 12,397 千円が含まれております。また、セグメント資産の調整額 1,543,756 千円は、全社資産 2,098,893 千円とセグメント間取引 555,136 千円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

【訂正後】

当連結会計年度（自 2021 年 4 月 1 日 至 2022 年 3 月 31 日）

（単位：千円）

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務諸表 計上額 (注) 3
	鉄道事業	不動産事業	観光事業	バス事業	計				
営業収益									
外部顧客への売上高	2,932,361	326,895	367,242	156,508	3,783,008	569,164	4,352,172	—	4,352,172
セグメント間の内部売上高又は振替高	11,619	15,031	516	86	27,254	315,403	342,657	△342,657	—
計	2,943,981	341,927	367,759	156,594	3,810,262	884,567	4,694,830	△342,657	4,352,172
セグメント利益又は損失(△)	<u>△237,209</u>	<u>173,394</u>	<u>△36,733</u>	△100,681	<u>△201,229</u>	<u>△101,456</u>	△302,686	15,439	△287,247
セグメント資産	17,510,295	3,151,246	481,875	354,004	21,497,422	661,983	22,159,405	1,543,756	23,703,161
その他の項目									
減価償却費	249,544	43,666	12,744	27,559	333,516	12,407	345,923	—	345,923
特別損失									
(減損損失)	—	—	29,013	—	29,013	—	29,013	—	29,013
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	1,743,010	162	24,181	33,374	1,800,728	2,116	1,802,845	—	1,802,845

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり卸売・小売業、建設・電気工事業及び旅行業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額 15,439 千円は、固定資産未実現損益の償却額 3,041 千円とセグメント間取引消去 12,397 千円が含まれております。また、セグメント資産の調整額 1,543,756 千円は、全社資産 2,098,893 千円とセグメント間取引 555,136 千円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。